

秋祭りが抱える問題、コロナ禍の観光…

明石西高生が 地域を深掘り

地域の発展や課題について調べている明石西高校（明石市二見町西二見）の生徒たちが1日、地元まちづくり協議会メンバーらの前で中間発表をした。「秋祭りの維持、存続」など多様なテーマを提起し、地域住民らと共に議論を深めた。
（有富晴貴）

同校の「総合的な探求」の授業の一環。同授業では生徒がテーマごとに10個ほどのゼミに分かれ、仮説を立てたり検証したりしながら一年を通じて研究する。

今回は「地域」をテーマにした2年生の19人が、2、3人のグループに分かれて発表。「秋祭りが抱える問題」について発表したグループは、人手不足や布団太鼓の維持費によって存続が危ぶまれると指摘。伝統文化が消失する可能性を示した。参加者からは「お金はなんとかなるだろうが人がいなくなってしまう」「伝統文化をなぜ守らなければならないのか、ということから考えてはどうか」などの意見が上がった。

ほかにも「地域の食文化」や「コロナ禍の観光」などについて、計7グループが発表。「ふるさと納

研究成果発表、住民らと議論

まちづくり協議会メンバーらを前に発表する明石西高校の生徒＝明石市二見町西二見



税」をテーマにした八束鷹（たか）さんは「ふるさと納税は返礼品が魅力だと思っていたが、税金の使い道が分かるという理由で選ぶ人もいると知った。年度末にも発表があるので、きょう聞いた意見をそこで生かしたい」と話した。